

いなむら稲村の「い～なこの街尼崎」1月

テーマ：尼崎にまつわるエピソード

稲村：月に1度、お届けしているこのコーナー。今回は、寺町。みなさんご存知の方多いと思います。

阪神尼崎駅の近くにあります寺町にあります大覚寺のご住職でいらっしゃいます岡本元興（おかもと げんこう）さんをゲストにお迎えしまして、「尼崎にまつわるエピソード」と題して、市内各地に残る歴史的なエピソードについてお話しを伺いたいと思います。岡本さん今日はお忙しい中ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

岡本：どうぞよろしくお願いいたします。

稲村：はい。では、まず岡本さんのご紹介をさせていただきたいと思います。岡本さんは、昭和32年生まれの56歳。いやもっと若くみえますけどね。平成9年に今のこの大覚寺の住職となりました。平成17年から奈良市にある唐招提寺の責任役員・執事も勤めていらっしゃいます。

また、これほんとお世話になってるんですけども、平成12年から本市尼崎市の教育委員に就任をしていただいております。もう子供たちにもいつも暖かい眼差し、そして教育委員会には厳しい指摘をいつもいただいております。ありがとうございます。

そして、まちの魅力の再発見や新たな創出、情報発信などを担います「あまがさき・街のみどころご案内委員会」の委員にも就任して活躍をしていただいております。本当にいつもお世話になっております。今日はこういった「街のみどころご案内委員会」でも色々とお力をいただいております、この大覚寺、そして尼崎市にまつわるエピソード。このラジオ番組でもぜひ皆さんにご紹介したいと思います。

稲村：まず、この岡本さんのいらっしゃる大覚寺なんですけれども、実は聖徳太子の命で建てられた尼崎でも最古のお寺だという風に聞いてるんですけども、まずこの辺りから教えてもらえますか。

岡本：尼崎にあります大覚寺は、元々は長洲の裏にありました灯籠堂。まあ灯台の役目をしました建物なんですけれども、それが起源だという風にも言われております。

稲村：やっぱりね。尼崎は海に関係しているんですね。

岡本：そうですね。尼崎から北へ30km。剣尾山という山がございます。北摂の山から唯一見える浜が尼崎の浜です。尼崎の浜で狼煙をあげますと、その剣尾山の山から見えます。剣尾山の山から狼煙を上げますと、今度は東に20km。ここには愛宕山が見えます。愛宕山から狼煙をあげますと、京都の町まで10km。瀬戸内海で変事が起こった時にそれを都へ知らせる、そういう役目をこのお寺は担っていたようです。

稲村：なるほど。

岡本：聖徳太子の命で百済の日大聖人っていう方が適地を探る中でそうしたお寺をそれぞれお造りになった。アメリカにありますスミソニアン・フリーア美術館に「槻峯寺建立修行縁起絵巻」という土佐光信の絵巻が残ってるんですけども、そこには当時の尼崎の浜の絵。長洲の浜の絵が描かれてて大覚寺の元になります灯籠堂の絵も残っております。

稲村：わぁ。なんか凄いですね。聖徳太子といいますが600年代とかですよ。

岡本：そうですね。

稲村：尼崎といえますとやっぱり工業都市というイメージでこの近代の印象を強く持ってらっしゃる方

も多いと思うんですけども、実はこんな古くからの歴史がずーっとあるんですよ。こういった古くからの歴史がある尼崎の魅力を今日はもっとお伝えしていきたいと思います。

稲村：では。どんどん行きましょう。こういった尼崎に伝わるエピソードをもっともっと教えていただきたいと思うんですけども。琴浦神社ありますよね。

岡本：琴浦神社。ここはですね。源氏物語と関係があるんですよ。源融（みなもとのとおる）が源氏物語のモデルだっという風に言われてるんですけども、この源融が暮らしてました六条河原院。鴨川の六条の辺りにあった大きな庭園なんですけれどもね。ここは陸奥の塩釜の風景を写した庭園がそこには造られて、そこでは海水を火にかけてお塩を精製するんですけども、尼崎の琴浦神社のあの先の浜ですね、塩を汲んでそれで京都まで運んでた。そういう話があるんですね。

稲村：最初、京都の話でいつ尼崎が出てくるかなと思ったら、尼崎の海の水から塩を作ったということなんです。

岡本：尼崎の水を汲んでですね、京都に運んでそこで六条の河原の院に、池に海水を溜めて魚介を飼ったという記述がそういう話がありますので、尼崎の琴浦神社には源融がご祭神に祭られています。

稲村：へえ知らなかった。

岡本：そうなんです。社門は塩釜のその釜の字を当てた社門が使われているんですよ。

稲村：そうだったんですか。やっぱり都との縁というのがあるんですよ尼崎って。

岡本：おっしゃるとおりです。尼崎は京都の都から淀川を通過してですね、初めての海なんです。昔はですね、尼崎の浜がですね、京都の都へ物資を運ぶ拠点になっていたということですね。

稲村：なるほど。現在の尼崎市も交通の要衝とありますが、やはり非常に便利がいい。色んなところに繋がっていてどっちの方面にも行きやすいということが、非常に魅力だと思っていただいている訳なんですけれども、これは昔々からそうだった事なんです。

岡本：そうですね。たとえば鎌倉時代に平家とその奈良の大仏殿を焼いてしまった後ですね。その奈良の大仏殿を復興するために、全国から材木を運んだんですけども、その大きな集積地になっていたのが、尼崎の大物っていう場所です。で、大物っていうのは「おおもの」っていう風になりますけれども、これは寺院に使うような大きなああいう建材のことを「おおもの」と言いますので、それを集めた場所ってことですね。

稲村：はあなるほどなるほど、やっぱり地名にも歴史がそうやって隠れてるんですね。いや面白いです。

実は私が仕事をさせてもらっている尼崎市役所なんですけれども、となりに橘公園という公園がありまして、その前には橘通りと言う道路が通っているのですがこれもエピソードがあるんだとか。

岡本：そうですね。橘は平安時代。んーもっと古いですよ。古事記にでてきます。

稲村：古事記、これまた古いですね。

岡本：そうですね。田道間守（たじまのもり）っていう人が常世の国へ非時香果（とちぎくのかごのみ）という不良長寿の薬を10年の歳月をかけてとりに行き行って持って帰ってきた、その橘を植えた場所がこの橘御園。聖武天皇が「橘は菓子の頂上」とおっしゃってお菓子の中で一番おいしいとおっしゃったことから、田道間守はお菓子の神様っていう風にして祭られてたりするんですよ。

稲村：なるほど、「たちばな」っていういろんな字がありますよね。駅だと立つ花と書くんですけども、この橘公園や橘通りはこの柑橘類の橘で、なんでかなあと思ってたんです。

岡本：本来はこの文字を書きます。

稲村：そうだったんですね。

岡本：橘と言っても、おひな祭りに祭る左近の桜、右近の橘の橘だけが橘じゃなくて、グレープフルーツもレモンも普通のみかんもみんな橘という風に言われるみたいですね。橘公園にいるんな柑橘の花が咲いてですね、いろんなみかんがなると楽しいかもしれませんね。

稲村：なるほど。それはちょっと今後のチャレンジのひとつかもしれません。

稲村：さて、実は尼崎の市外にも尼崎に関する歴史的なエピソードがあるという風に聞いたんですけれども。

岡本：はい、そうですね。たとえば東京にあります「青山」。おしゃれな街ですよ。日本でも一番おしゃれかもわかりませんよね。

稲村：本当ですよ。え、それと関係あるんですか尼崎が。

岡本：そうなんです。実は、尼崎のお殿様はですね、徳川幕府の老中もなされた青山喜成公という方なんですけれども、その方の下屋敷のあった場所が実はあの青山なんです。尼崎藩は代々3代青山が続きます。

稲村：この青山さんの名前が今のあの東京の「青山」の由来だっていう。

岡本：はい。そうですね。

稲村：おお。なるほど。尼崎城も寺町と関係あるんでしょうか。

岡本：元々は大覚寺があったんですけれども、江戸時代になってから尼崎城をつくるということで、

稲村：結構立派な、お城だったんですね。

岡本：大阪城の西の守りを造ったんですけれどね。その城下町をつくる時に寺町っていうのが出来たんですよ。築地の町ができて、中国街道という尼崎城から出発する新しい街道が出来たりしたんですよ。

稲村：なるほど。私も市長をさせていただいて、もう3年になるんですけれども、まだ知らないエピソードがこんなにあるのかと、今日は驚いたぐらいなんですけれども、でもやっぱりもっと皆さんに知っていただきたいです。

岡本：そうですね。こうした民話や由来など、尼崎が持ちますこれも貴重な財産だと思いますので、こうした尼崎に関するエピソードに着目していろいろ今情報を集めて、皆さんにお伝えできればいいなっていう風に考えております。

稲村：うわー楽しみです。やっぱりいろんな事を知って、街のお寺とか地名をみるとまた、違う味わいがありますよね。もうぜひ期待しています。

岡本：はい、ありがとうございます。

稲村：えっと大覚寺さんといえば、私、毎年節分にお邪魔しているんですけれども、その時に身振り狂言というのも豆まきと一緒にされますよね。

岡本：そうですね。昭和28年に、幕末に途絶えていたものを復興してから、新たに色々な尼崎の物語、エピソードをですね。題材にした新曲も作りながら、進めております。兵庫県ふるさと文化賞も平成19年度に頂戴したりしております。

稲村：素晴らしいです。身振り狂言という事ですから、いわゆるパントマイムと言うんですかね今時で

いいますと。

岡本：そうですね。昔はひょっとすると台詞があったのかもわかりませんが、広い場所ですので、時間が経っていくうちにですね、無言のパントマイムの劇になっていったようですね。

稲村：ある意味、そういうあの難しいことがちょっと分からなくても、見て楽しんでいただける。歴史を感じていただけるという意味ではね。とっても素晴らしい。これをね、ずっと守って、狂言をそうやって皆さんに披露してくださっている大覚寺さんに本当に感謝したいなと思うんですけども、元興さんはなんで大覚寺以外のエピソードもこないっぱい知ってはるんですか。

岡本：まちの事が好きだからでしょうね。

稲村：色々調べていくうちにこんなもあるとか、こっちが繋がるとか。

岡本：そうですね。お能だけでもですね。7曲位尼崎市に関連するものがあったりして、こう追って見っていくと凄く楽しいですね。

稲村：元興さんの素晴らしいのはその楽しさを自分だけじゃなく、もっと多くの人達に伝えたい、一緒に共有して行こうという取組で私たちもたいへん力強く、心強く思っております。本当にありがとうございます。もう今回、ちょっと時間が足りなくて、エピソードを紹介しきれなかった位なんですけれども、是非、ちょっとまた改めて第2弾もお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

稲村：それでは、本日は、大覚寺住職の岡本元興（おかもと げんこう）さんをゲストにお迎えして、「尼崎にまつわるエピソード」ご紹介しました。本当に今日はお忙しい中ありがとうございました。

岡本：ありがとうございました。

稲村：それでは、皆さん次回の放送もどうぞお楽しみに……。